

**腎機能低下症例に対する造影 CT 検査実施のため、
当院に入院・通院された患者さんの情報を用いた医学系研究に対するご協力をお願い**

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。匿名化が図られ個人は特定されず、また過去の診療記録情報の収集と解析にとどまるため、対象者には直接の不利益はありません。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象患者さんのお一人お一人からの直接のご同意に代えて、研究内容の情報を公開することをもって実施可能とされております。

この研究に関するお問い合わせ、ならびに、この研究内容の対象となられる方で「ご自身の診療録（カルテ）は除外してほしい」と望まれる方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題名】

低管電圧撮影と Iodine mapping を併用した造影剤使用量低減に関する初期検討

【研究部署】 神戸朝日病院 放射線科 CT 室

【研究責任者】 小林 久人（放射線科部長）

【研究の目的】

ヨード造影剤を用いた画像診断は日常臨床において必須の検査項目である。しかし、腎障害患者に対してヨード系造影剤を使用した検査において造影剤腎症が問題視されており、2018年に更新されたガイドラインには可能な限り造影剤を減らすよう記載されている。ヨード系造影剤を用いた検査において、造影効果を高める手法として、**Iodine mapping** を用いる手法がある。本手法では、造影画像から単純画像を差分し、ヨード造影剤の分布を作成する。この画像を、元の造影画像に加算することで造影強調画像が取得可能である。また、他の手法として、管電圧を下げて撮影する手法があり、通常の管電圧（120kV）より低い管電圧（100kV、80kV）にて撮影することで、造影効果は通常管電圧 120kV と比べて 100kV で約 25%、80kV で約 70%上昇するとされている。これら 2 つの手法を併用することが出来るのであれば、造影効果は更に大きく上昇する可能性が示唆される。また、得られた造影効果を、造影剤量の低減に利用することで、腎機能が低下した患者に対しても造影検査が可能となり、ガイドライン遵守、及び造影剤腎症発症予防につながることに期待ができる。本研究では、Iodine mapping を用いる手法において、使用された管電圧が異なっても一定の造影効果を見込めるのか、また本手法を使用するにあたってリスクが無いか（ヨウ素の抽出やサブトラクションに欠落が無いか、診断に足る画質を有しているのか等）検討することを目的としている。

【研究方法】

対象となる患者は下記の通りである。

- ・ 過去当院にて造影 CT 検査を撮影した者
- ・ 90 日以内に採取した eGFR 値が 45 未満の腎機能低下症例

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接と特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外部に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。この研究の対象となられる方で「ご自身の診療録（カルテ）は除外してほしい」と望まれる方は下記お問合せ先までご連絡下さい。

【問い合わせ先】

神戸朝日病院 放射線科 CT 室

放射線科 小林亮

〒653-0801 神戸市長田区房王寺町 3-5-25

TEL : 078-612-5151